



てんてんが行く

またちの お医者さん

痔は治療が早ければ早いほど治りもスムーズで、痔に隠れている他の病気を見つけることも可能です。今回は小林病院の山本康弘外科部長に肛門科を受診するメリットをお聞きしました。

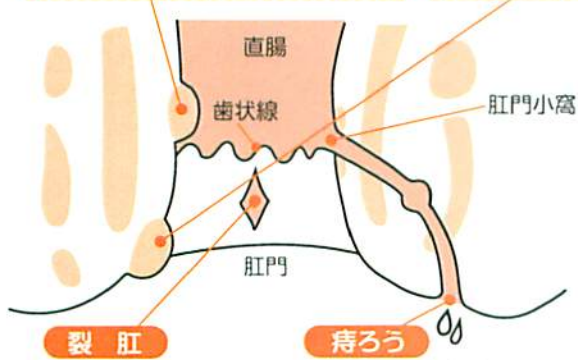
痔核 内痔核と外痔核の2種類がある

●**内痔核**

歯状線より上にできる痔核。この部分には知覚神経がないため、痛みを感じない。排便時に出血や脱出などの症状をとめない、脱出してうっ血を起こすと痛みを感じる。

●**外痔核**

歯状線より下にできる痔核。排便時に脱出しやすい。知覚神経があるため、痛みを訴えることが多い。



裂肛
硬くなった便が肛門を傷つける
硬い便や下痢などで、肛門の皮膚が切れたり裂けたりした状態。出血の量は少ないが、強い痛みが走る。

痔ろう
おしりに膿の穴ができる
肛門小窩に溜まった膿を排出するためのトンネルが、おしりの中に開通した状態。発熱や痛みをとまなう。自然に治ることはまれで、手術が必要となる場合が多い。

山本 痔は大きく分けていぼ痔(痔核)、切れ痔(裂肛)、あな痔(痔ろう)の

3タイプがあります。重度な痔核でも切らずに治療できる注射療法——日本人の3人に1人は痔主であるといわれています。しかし恥ずかしくて肛門科を受診するのをためらっている人も少なくない。痔の症状によっては専門医でなければ対処が難しい疾患もあります。適切な治療を受けるためにも経験豊富な専門医の先生に診てもらったことが欠かせません。痔について少し教えていただけますか。

痔には「痔核」「裂肛」「痔ろう」の3タイプがあります

3タイプがあります。中でもいぼ痔の方が多く、出血やかゆみに悩まされている方が多いです。症状の軽いものであれば薬で治ります。重度の痔核と診断された場合や保存療法では出血や痔核の脱出が改善されない場合に「手術」や「外科的処置」が必要となります。かつては痔核本体を肛門の壁から剥がし取るように切除し縫い合わせる「結紮切除術」が主流でしたが現在、内痔核の治療は「切る」だけでなく、痔核に薬液を直接注射する「注射療法」「ALTA療法」は、薬剤を痔核に注入して痔核に流れ込む血液の量を減らし、痔核を硬めて筋層に癒着・固定させるもので、痔核が肛門から脱出しなくなるだけでなく出血を防ぎ、時間とともに痔核そのものを小さくすることで症状を改善させる療法です。このALTA療法は、一つの痔核に対して4ヶ所に注射。複数の痔核がある場合にはこれを繰り返し行います。この4ヶ所の注射位置や使用する注射液の用量は、専門知識と技術を必要とするため治療ができる医師は専門医に限定されています。私の勤める小林病院では、私をはじめ手術例や検査症例の豊富な専門医が

この治療に当たっています。注射療法は体への負担も少なく入院期間も短く済む、患者さんにやさしい治療法だといえます。

——切れ痔(裂肛)は？

山本 切れ痔(裂肛)は、硬い便の時に切れてしまつて痛みが出ます。急性の裂肛だと少し薬を使うだけで治りますが、我慢を重ねていると自分が意識しなくてもお尻が締まってしまう、そこに便が入り込んで炎症を繰り返してしまいます。炎症を繰り返すうちにだんだん肛門が狭くなり、切れたところに便が挟まると両側にポリープができてきます。肛門が狭くなると手術が必要になります。軽ければ筋肉を少し切開して肛門を拡張するだけで済みますが、重い場合には潰瘍の部分に皮膚をずらす「スライディングスキングラフト」という肛門の皮膚を潰瘍の上に乗せ縫ってあげる手術が必要になります。

——慢性化がトラブルを大きくするわけですね。

山本 そうですね。慢性裂肛になる前の治療が欠かせません。治療が早ければ早いほど治りもスムーズです。痔に隠れている他の病気を見つ

けることもできます。お尻のトラブルで悩んでいる方は一日でも早い受診をお勧めします。

この治療に当たっています。注射療法は体への負担も少なく入院期間も短く済む、患者さんにやさしい治療法だといえます。

——切れ痔(裂肛)は？

山本 切れ痔(裂肛)は、硬い便の時に切れてしまつて痛みが出ます。急性の裂肛だと少し薬を使うだけで治りますが、我慢を重ねていると自分が意識しなくてもお尻が締まってしまう、そこに便が入り込んで炎症を繰り返してしまいます。炎症を繰り返すうちにだんだん肛門が狭くなり、切れたところに便が挟まると両側にポリープができてきます。肛門が狭くなると手術が必要になります。軽ければ筋肉を少し切開して肛門を拡張するだけで済みますが、重い場合には潰瘍の部分に皮膚をずらす「スライディングスキングラフト」という肛門の皮膚を潰瘍の上に乗せ縫ってあげる手術が必要になります。

——慢性化がトラブルを大きくするわけですね。

山本 そうですね。慢性裂肛になる前の治療が欠かせません。治療が早ければ早いほど治りもスムーズです。痔に隠れている他の病気を見つ

けることもできます。お尻のトラブルで悩んでいる方は一日でも早い受診をお勧めします。

この治療に当たっています。注射療法は体への負担も少なく入院期間も短く済む、患者さんにやさしい治療法だといえます。

——切れ痔(裂肛)は？

山本 切れ痔(裂肛)は、硬い便の時に切れてしまつて痛みが出ます。急性の裂肛だと少し薬を使うだけで治りますが、我慢を重ねていると自分が意識しなくてもお尻が締まってしまう、そこに便が入り込んで炎症を繰り返してしまいます。炎症を繰り返すうちにだんだん肛門が狭くなり、切れたところに便が挟まると両側にポリープができてきます。肛門が狭くなると手術が必要になります。軽ければ筋肉を少し切開して肛門を拡張するだけで済みますが、重い場合には潰瘍の部分に皮膚をずらす「スライディングスキングラフト」という肛門の皮膚を潰瘍の上に乗せ縫ってあげる手術が必要になります。

——慢性化がトラブルを大きくするわけですね。

山本 そうですね。慢性裂肛になる前の治療が欠かせません。治療が早ければ早いほど治りもスムーズです。痔に隠れている他の病気を見つ

けることもできます。お尻のトラブルで悩んでいる方は一日でも早い受診をお勧めします。

この治療に当たっています。注射療法は体への負担も少なく入院期間も短く済む、患者さんにやさしい治療法だといえます。

——切れ痔(裂肛)は？

山本 切れ痔(裂肛)は、硬い便の時に切れてしまつて痛みが出ます。急性の裂肛だと少し薬を使うだけで治りますが、我慢を重ねていると自分が意識しなくてもお尻が締まってしまう、そこに便が入り込んで炎症を繰り返してしまいます。炎症を繰り返すうちにだんだん肛門が狭くなり、切れたところに便が挟まると両側にポリープができてきます。肛門が狭くなると手術が必要になります。軽ければ筋肉を少し切開して肛門を拡張するだけで済みますが、重い場合には潰瘍の部分に皮膚をずらす「スライディングスキングラフト」という肛門の皮膚を潰瘍の上に乗せ縫ってあげる手術が必要になります。

——慢性化がトラブルを大きくするわけですね。

山本 そうですね。慢性裂肛になる前の治療が欠かせません。治療が早ければ早いほど治りもスムーズです。痔に隠れている他の病気を見つ

けることもできます。お尻のトラブルで悩んでいる方は一日でも早い受診をお勧めします。

この治療に当たっています。注射療法は体への負担も少なく入院期間も短く済む、患者さんにやさしい治療法だといえます。

重度 慢性化した裂肛

排便のたびに患部が炎症を起こし、傷口が深くえぐられて潰瘍になった状態。潰瘍部分の先端には肛門ポリープや見張りイボができる。排便時にも十分に肛門が広がりにくく、細い便しか出なくなることも多い。



重度 重度に悪化した痔ろう



たまった膿が出口を求めてトンネルを形成していく。おしりの皮膚が破れて膿が外へ排出されると痛みや腫れはいったん治まるが、トンネルは残ったままとなる。このトンネル取り除かないと、細菌が入り込んで化膿を繰り返す。

— 次にあな痔(痔ろう)についてお尋ねします。

山本 あな痔(痔ろう)で病院を訪れる患者さんは、肛門周囲膿瘍で肛門のまわりが腫れて痛いという人がほとんど。切開すると膿が出るなど、肛門周囲膿瘍の原因となっているのがあな痔です。肛門には菌状線という凹みがあるので、その凹みに便がはまり込んで炎症を繰り返しているうちに肛門の外側に膿の塊ができてしまうのです。病院にいられた場合は切開して膿を出します。1回で治ることもありますが、大抵は繰り返ししてしまいます。その場合は病変部をろう管ごと取り除くなどの治療を行います。

す。膿が出れば治ると思いい、何回も繰り返し返してしまうと痔ろう癌というがんができてしまうケースもあります。もう一つ注意しなければならぬ痔ろうの隠れた疾患としてクローン病という病気があります。クローン病は口腔から肛門までの消化管全域に炎症や潰瘍を起こす病気で、近年増加傾向にあります。特に10、20代の男性に多く見られます。症状としては粘液便、血便、慢性下痢、腹痛などがあり、進行すると腸が細くなり、腸管に穴が空く難治性の病気です。痔ろうに似た形で肛門に潰瘍をつくりま

す。特に若い方で下痢とかを繰り返している場合は、大腸も調べてクローン病がないかどうかを調べないと、炎症腸疾患が見つけられないので要注意です。

— 「痔を見せるのが恥ずかしい」「ただの痔だから…」などと素人診断せず、痛み・出血・不快感から開放されるためにも専門医に早く診てもらうことが必要なのです。

山本 ぜひ、そうしていただきたいですね。「いつも血が出るんですけど」という患者さんを診ても痔はほとんどないということも。もう少し上のところに何かあるのではと大腸カメラ検査をして、大腸癌が見つかった

方もいます。普段から便を確認し、お尻を拭いた後に血が出てきた場合は必ず医療機関を受診してほしい。

か？
山本 分からないと思います。「ホワイトヘッドアヌス」でなくても、お尻が緩んできた場合、粘膜だけが出てくる方もいらつしやいます。そんな方にもPPHは非常に有効です。この他、排便しようと力んだときに直腸が出てしまう直腸脱や子宮脱・膀胱脱といった性器脱が直腸脱と一緒に現れることがあります。出産をした女性には直腸脱が多く、年をとったからと諦めないで私たちのところに相談に来ていただければと思います。その中で直腸癌が見つかることもあります。恥ずかしがらずに来院してください。小林病院では、金曜日の15時から16時に「お尻外来」を設け、予約制であり待ち時間なく検査を受けられる外来診察を行っています。ぜひご利用いただければと思います。

— 専門医としてぜひ相談していただきたいと思う症例は？
山本 粘膜脱とか直腸脱という病気を知らない方が多いと思います。昔「ホワイトヘッド」という痔の手術をされた方。腫れた痔核のところを全部取り、肛門と直腸を縫い合わせる手術で、この手術を受けられた方は年を重ねていくと粘膜脱を起こしやすくなります。これを「ホワイトヘッドアヌス」といいます。これは、当時の手術の悪い遺産で、一見何でもないのですが、長時間立っていたりすると粘膜が下がってきたり、長時間歩いていると粘膜が下がってきて下着を汚してしまう。お尻がかゆいなど痔と同じような症状に悩まされている方も少なくありません。このような症状の場合には粘膜を正常な位置へ吊り上げるPPH法で改善することも可能です。

— それは専門医でないと分からないのです
小林病院 外科部長 医学博士 **山本 康弘** (やまもと やすひろ)
1986年 旭川医科大学卒業
1987年 旭川厚生病院
1988年 市立土別総合病院
1989年 国立療養所道北病院 (現 国立病院機構旭川医療センター)
1991年 日鋼記念病院
1993年 旭川医療大学付属病院の勤務を経て
1999年 小林病院 外科部長 (現在に至る)
(資格) ●日本大腸肛門病学会専門医・指導医
●日本外科学会専門医・指導医
●日本消化器病学会専門医・指導医
●日本消化器外科学会専門医・指導医
●日本がん治療認定医機構がん治療認定医 他
小林病院
住所 北見市北3条西4丁目
TEL.0157-23-5171 FAX.0157-61-8071
http://www.k-24.jp/
●受付時間: 平 日/午前8:30~午後5:00
土曜日/午前8:30~午後0:30
※救急患者24時間対応
●お尻外来: 金曜日 15:00~16:00[予約制]